

- 1-2p **CLOSE UP people**
船宿 あみ弁 代表取締役/東京東部漁業協同組合 副組合長
小島 一幸さん
- 3-4p 旧中川たのしい会
代表 風間 勝昭さん
- 5-7p 地域密着 ここにもあった SDGs 活動!
- 8p **EDOGAWA specialty**
江戸川区・新川 歴史がつなぐ水辺の散歩道
～新川さくら館とともに～

みなてらす

MINATERASU PRESS
EDOGAWA NEWS PAPER

江戸川区版



vol 08
2026. 春・夏号

水辺の未来を守りたい

幼い頃に親しんだ自然の豊かさを胸に、伝統漁を受け継ぐ小島一幸さんと、旧中川を「いい場所」に育てる風間勝昭さん。お二人が続ける水辺の未来を照らす取り組みに注目したい。



旧江戸川に息づく、自然と伝統漁の継承

江戸川区今井。ここには、江戸時代から150年以上にわたり、漁業を営んできた小島家がある。現在、九代目を継ぐのは小島一幸さん。幼い頃から「将来は船頭になるんだよ」と父に言われて育ち、物心ついた頃にはすでに家業を継ぐことを当然のように受け止めていた。

「昔のこの辺の川や海は、生き物であふれていましたよ」と一幸さんは懐かしそうに語る。クロダイ、スズキ、カレイ、ハゼ、ギンポなど、川や海には多様な魚が泳ぎ、干潟には無数のゴカイが生息していた。子どもの頃は、川辺でエビやカニ捕り、釣り等を楽しみ、川はまさに生活の一部だったという。

父の背中で教わった漁師の心と技

きょうだいの中で唯一の男子だった一幸さんは、10歳のころから漁や網の修理、網船での接客などを手伝い始めた。網船では、最初は舵子として舵を取り、中学生になると投網をぶっつけ本番で打たされた。お客さんの前で成功すれば褒められ、失敗すれば野次が飛ぶ。そんな厳しい環境の中で、漁師としての技と心を育んできた。

網打ちは息を合わせることが大切で、「舵子として船に乗っていると、父が顔や足で合図を送ってくるんです。怒鳴られることもありましたが、今思えば、それがあったからこそ今の自分があると思います」と当時を振り返る。

小島家が代々受け継いできたのは江戸末期から続く「細川流投網」と呼

ばれる伝統漁法。熊本の細川藩で工夫されたこの技法は、広げると約10メートル以上にもなる網で、江戸の投網漁とは一線を画す。網の構造や投げ方に独自の工夫が施されており、高度な技が求められる。「未だになかなか納得のいくようにはいかない、一生の勉強ですよ」と小島さんは笑顔で語る。

変わりゆく水辺の環境

時代とともに、東京奥湾を取り巻く自然環境は大きく変化した。護岸整備や埋め立てにより干潟や葦原が失われ、魚は激減。浅瀬が埋め立てられたことで海底環境が悪化し、特に夏場は無酸素状態になることもある。ハゼやカレイなど海底で暮らす魚たちは急激に姿を消した。「温暖化のせいか、これまでに見なかった南方の魚、カライワシがくるようになったんです。環境の変化が漁業に与える影響は年々大きくなっていますね」と小島さんは話す。

CLOSE UP people

1



船宿 あみ弁 代表取締役/
東京東部漁業協同組合 副組合長

小島 一幸 ことば かずゆきさん

1966年（昭和41年）生まれ。60歳。江戸川区今井で150年以上続く漁家の九代目。あみ弁代表取締役として漁業と屋形船業を営み、東京東部漁業協同組合副組合長として水辺文化の保全に尽力する。仲間と「投網保存会」を立ち上げ、細川流投網の継承にも力を注ぐ。また、水生生物の調査漁業を通じて東京奥湾（主に旧江戸川や葛西沖）の自然環境を見守り続けるほか、次世代への環境教育にも積極的に取り組んでいる。

次世代へ受け継がれる意志

環境の変化により、かつて盛んだった船遊びも次第に姿を消した。そんな中、網船の漁師たちが新たに始めたのが「屋形船」だ。バブル期からブームになり、多くの人たちが水上の宴を楽しむようになった。

小島さんの息子さんも20代後半で家業を継ぐ決意をした。もともとは美容師を目指していたが、自ら「やりたい」と申し出たという。「うれしかったですね」と小島さん。現在、息子さんは屋形船の運転や接客、天ぷらの調理までこなす。アルミ製の大鍋で揚げる天ぷらは、船の揺れにも対応できる工夫がされており、スズキなどの新鮮な魚を使った料理はお客さんにも好評だ。さらに、小島さんが長年取り組んできた水生生物の調査漁業にも親子で携わっている。季節ごとの稚魚のデータを集めるなど、地域の自然環境を見守る役割も担っている。



息子さんの舵子と小島さんの網打ち。息を合わせて漁を行う。



屋形船「あみ弁丸」とともに。



この大量の筒は、アナゴを獲るための漁具。



屋形船の運航も、親子の力を合わせて行っている。



大迫力の投網風景



文化を守り、伝えるという使命

屋形船の運航は、多くの命を預かる責任ある仕事だ。「春の隅田川の桜、夏の花火、冬の澄んだ空気。屋形船には四季を感じる楽しみがあります」と小島さん。お客さんが、「きれいだね」「美味しいね」と笑顔を見せてくれる瞬間が、何よりの喜びだと言う。

「伝統漁と自然の美しさをつたえること」それが小島さんの誇りであり、使命でもある。

地域の漁師たちとともに「投網保存会」を立ち上げ、文化の継承にも力を注ぐ。かつて隅田川などで細川流の投網を行っていた船宿は姿を消し、今では今井地区だけがその文化を守り続けている。歌川広重の浮世絵にも描かれたという投網風景は、「新川」ではないかとも言われている。そんな歴史ある文化を現代に蘇らせることは、単なる懐古ではなく、地域の誇りを未来へつなぐ大切な営みだ。

自然の恵みを、次の世代へ

小島さんが強い危機感を抱いているのが、マイクロプラスチックの増加である。船のエンジンの濾し器には、細かいプラスチックゴミがびっしりと絡まり、海水をすくう網にも無数の破片が引っかかると言う。

「環境は変わってしまったけれど、一人ひとりが意識を変えれば、きれいな海を取り戻せるはず」と小島さんは話す。

現在は台場の小学校や区内のNPO団体で海苔づくりの協力をするなど、子どもたちに自然と触れ合う機会を提供している。また、今後は、かつてのような船遊びの文化を復活させたいと考えている。

お客さんを乗せて投網を打ち、その場で獲れた魚を味わってもらう。そんな体験を通して、東京の海の自然や魚の魅力を知り、海を守ろうという意識が芽生えてほしいと願っている。

「私たちの食べ物はすべて自然からの恵み。自然を壊せば、その影響は必ず自分たちに返ってきます」。その言葉には、自然とともに生き、文化を未来へつなぐ漁師としての誇りと覚悟が込められている。

船宿 あみ弁(あみべん)



江戸情緒を今に残す屋形船の運航を行う。江戸川事業所より乗船の場合、近隣の駅や指定集合場所からの無料送迎あり。

住所：東京都江戸川区江戸川4-20-8(江戸川事業所)
連絡先：03-3651-4607



CLOSE UP

江戸川区水辺のボランティア

旧中川たのしい会 代表

かざま

かつあき

風間 勝昭 さん

people

2

PROFILE

1944年（昭和19年）生まれ

東京大学、文部省（現文部科学省）、国立極地研究所、宇宙科学研究所（現JAXA）、東京工業大学（現東京科学大学）の勤務を経て、東京大学教養学部事務部長・副学部長となり、2005年（平成17年）3月定年退職。その後、（財）日本国際教育支援協会、（独）理化学研究所等に勤務し、2023年（令和5年）7月江戸川総合人生大学江戸川まちづくり学科18期生のクラスメートと江戸川区水辺のボランティア団体「旧中川たのしい会」を立ち上げ、その代表となり旧中川のバタフライガーデンの維持管理や河川敷の清掃、地元小学校での教育支援活動に会員と共に力を注いでいる。



旧中川を“いこいの場”に

仕事一筋の人生から、仲間と歩む地域活動へ

長年、国家公務員として忙しく働き続けてきた風間勝昭さんは、退職後、ふと足元の地元を向けた。「地元に戻しがしたい」。その思いが旧中川を守る活動へとつながった。やがて仲間たちと「旧中川たのしい会」を立ち上げ、清掃や花壇づくり、地域行事の支援など活動は多方面に広がっていく。地域とつながりながら取り組む日々は、風間さんにとって新たな生きがいとなり、旧中川の風景にも確かな変化をもたらしている。



美しくよみがえった旧中川。ゆったり散策したくなる水辺の風景が広がる。

自然に親しんできた少年期が、旧中川へとつながる

風間さんの原点には、茨城で過ごした幼い頃の自然体験がある。6人きょうだいの末っ子として生まれ、田んぼや川が遊び場だった。「田んぼや用水路で泥だらけになってフナを捕り、ウナギがかかる仕掛けを見に行くのが楽しみでしたね」と風間さん。自然の中で過ごす時間は、季節の移ろいを体で感じる豊かな経験となり、今の活動の原点となっている。

上京後は姉の嫁ぎ先である平井に住み、都会の川の汚れに驚いたという。仕事は多忙を極め、帰宅が深夜になることも多かった。そんな生活を案じた姉の勧めで結婚し、子育ては都心の官舎で過ごした。定年前に再び平井へ戻ると、旧中川は大規模改修中で、その後美しい遊歩道が整備された。

人生大学の仲間との出会いから広がる活動の輪

平井に戻ってからは、旧中川をウォーキングするのが日課になった。きれいになった川面を眺める一方で、タバコの吸殻やペットボトルのゴミが目についた。「せっかく生まれ変わった川をこのままにはおけない」そんな思いから、区の水辺のボランティアに登録したが、当時の登録者は風間さん一人だった。中平井橋から江東新橋までの区間を歩きながらゴミ拾いをし、蝶を呼び込む花壇「バタフライガーデン」の雑草取りなど、できる範囲で活動を続けた。その矢先、最愛の妻を亡くし、深い喪失感の中で「家に閉じこもってはいはだめだ」と自らを奮い立たせ、かつて学園祭で訪れた江戸川総合人生大学を思い出して入学した。そこで出会ったのは、年齢も経歴も異なる、地域で生き生きと活動する人たちだった。

風間さんが旧中川での取り組みを研究発表で紹介すると、クラスメートたちは強く共感し、「一緒にやりたい」「団体を立ち上げたらどうか」と声が上がった。こうして2023年（令和5年）7月、17名の仲間とともに「旧中川たのしい会」が誕生した。



旧中川沿いのゴミ拾いの様子。



鎮魂碑の清掃の様子。

地域とのつながりが生む新たな展開

立上げに当たり、風間さんは、小松川事務所の担当者や地域の連合町会長、近隣小学校の校長、子ども未来館の館長らを訪ね、地域で何が求められているのかを丁寧に聞き取った。活動は旧中川の清掃にとどまらず、東京大空襲の犠牲者鎮魂碑の清掃、近隣小学校で平和学習の一環としての舟灯籠づくりのサポートなど、多方面へと広がっていった。さらに、子ども未来館が主催する「親子魚釣り体験」では子どもたちをサポートし、地域の子どもたちと触れ合う機会も増えていった。

清掃活動では、旧中川の約4.5kmを班ごとに分担し、回収袋と火バサミを手に出発する。川に落ちたゴミは取りにくいので、風間さんが釣ざおを改良して作った特製の“さお”で器用にすくい上げている。また、鎮魂碑の清掃はブラシやタオルで丁寧に磨き上げ、皆で協力しながら和気あいあいと取り組む姿が印象的だ。

会の象徴「バタフライガーデン」と広がる交流

旧中川沿いに整備された5か所のバタフライガーデンは、会の象徴だ。幼虫が食べる食草植物、成虫が蜜を吸う蜜源植物を植え、蝶が集まる環境を整えている。「旧中川に関する楽しいことは何でもやろう！」を合言葉に、会員たちは楽しみながら活動を続けている。

会員同士の交流も盛んで、風間さん宅では、そば打ち名人の会員が腕を振るう懇親会も開かれている。「この年になると、新しい仲間ができるのは貴重です」と風間さんは嬉しそうに話す。

また、風間さんは人生大学での講演も依頼され、現役生たちに活動を紹介した。質疑応答では次々と熱心な質問が寄せられ、関心の高さが伺えた。良かったこととして、風間さんは、「人脈が広がったこと、地域の人たちから『ご苦労様です』『きれいですね』『心が癒やされます』などと声をかけてもらえることが励みになっている」とおおらかに語る。講演の最後には、会員の一人が「軽度の認知症だったが、この活動に参加して回復した。感謝しています」と話し、会場は温かな空気に包まれた。

渡り蝶アサギマダラを迎える日を夢見て

風間さんに今後の展望を尋ねると、「地域の子どもたちに自然の魅力を伝えたい」という思いを語ってくれた。「バタフライガーデンを小学校の授業で使ってもらえたら嬉しいです。子どもたちが実際に蝶を観察する機会になれば」と期待を寄せる。

そして、会のメンバーにはひとつの大きな夢がある。台湾から2,000km以上を旅する渡り蝶・アサギマダラを、いつか旧中川に呼ぶことだ。蜜源となるフジバカマを植え、その日が訪れるのを心待ちにしている。

朗らかな笑顔と温かなリーダーシップで仲間をまとめ、地域を輝かせている風間さん。「旧中川を“いきいの場”に」その願いは確かな形となって広がり続けている。



もともと雑草が伸び放題で放置されていたバタフライガーデンを整備し、憩いのスポットに。



色とりどりの花が咲き誇っていて、通りかかる人たちの目を惹くバタフライガーデン。



この菜の花に、モンシロチョウが集まるのだそう。



「旧中川たのしい会」の皆様。



江戸川総合人生大学にて講義をされた際の一枚。



地域密着

ここにもあったSDGs活動！ 地域に根ざし、地域とともに歩む



江戸川東ライオンズクラブの継続的な社会貢献活動

江戸川東ライオンズクラブは、1980年(昭和55年)に結成されたボランティア団体で、「地域社会への奉仕」を理念に掲げ、青少年健全育成支援や献血活動、環境保全、美化運動、災害支援など、多岐にわたる活動を展開している。地域の課題に寄り添いながら、人と人とのつながりを大切にしながら継続的な支援を行い、明るく住みよいまちづくりに貢献してきた。今回はその中から、薬物乱用防止教室と、障害者施設へのクリスマスケーキ配布という、地域に根ざした2つの取り組みを紹介する。



船堀駅前(TOKIビル広場)で行った献血活動。



「公共物の落書き消し」を地区の中学生と実施している。

子どもたちに「ダメ。ゼッタイ。」を伝える薬物乱用防止教室

江戸川東ライオンズクラブでは、薬物の危険性を伝える「薬物乱用防止教室」を2007年(平成19年)から継続して実施している。この活動はもともと警視庁が中心となって実施していたもので、より広い地域での啓発活動が求められる中、ライオンズクラブがその役割を担うようになった。2025年(令和7年)11月には西葛西中学校で開催され、薬物の依存性や健康被害、一度手を出すと取り返しのつかない結果を招くことなどを、動画や具体的な事例を交えて伝えた。授業では、薬物の種類や心身への影響に加え、友人からの誘いをどう断るか、隠語や巧妙な誘い文句への対処法など、実際に起こり得る場面を想定した内容も盛り込まれた。生徒たちは真剣な表情で話を聞き、自分自身の問題として受け止めていた様子が印象的だった。現在は東京都の麻薬・覚せい剤乱用防止センターと連携し、認定講師が区内の小・中学校・高校あわせて14校で実施。2025年(令和7年)4月～2026年(令和8年)3月の受講者数は計2,152名で、内訳は小学校6校577名、中学校7校1,509名、高校1校66名となる。



「知らない」が一歩目にならないように、地域ぐるみで子どもたちを守る取り組みとして続けている。

障害者施設など14箇所 心を込めたクリスマスケーキ配布

毎年クリスマスの時期に、江戸川区内の児童養護施設や障害者福祉作業所などへクリスマスケーキを届ける活動を行っている江戸川東ライオンズクラブ。2011年(平成23年)から続くこの取り組みは、地域とのつながりを大切にしながら、温かな支援を届けたいという思いのもと継続されている。2025年(令和7年)は12月24日に実施され、メンバーは、4班に分かれて14施設を訪問し、合計401個のケーキを届けた。各施設では職員の方々から感謝の言葉が寄せられ、利用者の嬉しそうな笑顔が見られた。年に一度のこの活動は、メンバーにとっても地域とのふれあいを実感できる貴重な機会となっている。



45周年記念事業を盛大に開催

江戸川東ライオンズクラブは、創立45周年記念事業として、クボタスピアーズ船橋・東京ベイの試合を冠スポンサーとして開催した。清掃活動、キッズイベント、児童養護施設の子どもの招待、選手との交流など多彩な奉仕事業を展開、地域が一体となって盛大に行われ、来場者は総勢4,996人にのぼった。

comment

2025年(令和7年)11月に45周年を迎え、現在32名のメンバーで活動しています。今年度のスローガン「救いの手を差し延べよう!」には、身近で困っている方に寄り添い、できる限りの支援をしていきたいという思いを込めています。地域に根ざすクラブとして江戸川区を第一に考え、行政や教育機関、警察・消防署と密に連携しながら活動を進めています。今後もこれまでの取り組みを大切にしつつ、地域に必要とされる活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



江戸川東ライオンズクラブ
会長 田中 忠男さん



ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区 江戸川東ライオンズクラブ

「救いの手を差し延べよう!」

ともに活動する楽しい仲間を募集中!
詳細はQRコードからご確認ください。



web サイト



ショートムービー



地域密着 ここにもあった SDGs 活動!



江戸川区に「地域の電力会社」誕生

太陽光でまちの電気をまかなう、新プロジェクトが本格始動



気候変動の影響を真っ先に受ける可能性がある江戸川区では、2050年に向けてカーボンマイナス都市の実現に向け、様々な事業を展開している。その中でも脱炭素でエネルギーの地産地消の創出を目指してきた取組みが2025年（令和7年）12月、ついに大きな実を結んだ。区と民間企業が共同出資する「江戸川電力株式会社」が設立され、地域主導の再生可能エネルギー普及に向けた中核プロジェクトが本格的に始動した。

江戸川電力はカーボンマイナス都市の実現に向けた重要な役割を担う。特に注目されるのは、一般家庭の屋根に太陽光発電システムを無償で設置する仕組みだ。初期費用は江戸川電力が負担し、住民には発電された電気を割安で利用できる「PPA（電力販売契約）モデル」を提供する。導入時の費用負担がなくなることで、家庭にも再生可能エネルギーを活用する機会が広がる。2030年度までに800世帯以上への導入を目指し、地域内で発電した電気を地域内で使う「電力の地産地消」モデルを構築していく考えだ。この取り組みは、温室効果ガスの削減や家計負担の軽減に加え、災害時には分散型電源として機能し、防災力の向上にもつながる。



2026年（令和8年）1月22日に開催された事業者向け脱炭素セミナーの様子。

住民参加で進める脱炭素のまちづくり

江戸川電力の運営には、複数の民間企業や地域金融機関が参画。行政の政策的な後押しと、民間の技術やノウハウを組み合わせることで、持続可能なビジネスモデルの確立を目指している。地域課題の解決と地域経済循環を同時に進める取り組みとして、他自治体からも注目されている。

さらに江戸川区では、住民の理解と参加を促すため「(仮称)地域脱炭素を実現するための勉強会」を開催。2025年（令和7年）2月末までに7回実施され、太陽光発電に関する疑問や意見が活発に交わされている。住民の声を丁寧にすくい上げながら、地域全体で脱炭素社会の実現を目指す姿勢がうかがえる。

都市部における脱炭素社会の新たなモデルとして、江戸川区の今後の展開に引き続き注目したい。



comment



江戸川区 環境部気候変動適応計画課長 大久保 雅理 様



令和5年2月に「カーボンマイナス都市宣言」の表明を行って、約3年の月日が経過しました。その間、地域の皆さまや区内事業者の皆さまと一緒に脱炭素へ向け歩んでまいりました。これからの地域脱炭素社会の実現に向けた大きな一歩が、「江戸川電力株式会社」の設立です。地域で使うエネルギーを可能な限り地域で作って地域に還元する…「いわゆるエネルギーの地産地消」を、これからも地域の皆さんと一緒に取り組ませていただき、環境面だけでなく地域の活性化に繋げていきたいと考えています。

挑みつづける、変わらぬ意志で。

東京商工会議所 江戸川支部

経営に関するご相談は **商工会議所** へ!

様々な支援メニューで貴方の経営をサポートします

- 資金繰り相談
- 無料セミナー
- 創業相談
- 専門家による相談
- その他各種経営相談

お申し込みには一部要件がございます。まずはお気軽にお問い合わせください。

東京商工会議所 江戸川支部
134-0091
江戸川区船堀4-1-1 タワーホール船堀3階
03-5674-2911 FAX 03-5674-2997

運送サービス
緊急・土日のみ・貸切...
多様なニーズに対応

物流倉庫
入出庫から配送までワンストップ対応

顧客満足=会社発展=社員の幸せ
この方程式の絶対確立が経営理念

- ✓ ドライバー 随時募集中!!
- ✓ 年齢不問!!
- ✓ 気軽にお電話ください

0120-50-2701

運送・物流サービスでコスト削減!!

人と人、心と心をつなぐ **TOA PORTER LINE**
物流総合ソリューション企業 東亜物流株式会社

地域密着

ここにもあったSDGs活動!



竹文化を未来へつなぐ

江戸川区・篠崎「竹と親しむ会」の歩み

かつて江戸川区では、竹林は生活を支える身近な存在だった。防風林として強風や水害から家庭や農地を守り、また、かごやざる、農具、物干しざおなどにも利用され、地域経済の一端を担っていた。しかし都市化の進展とともに竹林は減少し、竹文化は地域から遠ざかっていった。こうした中、「竹の文化を残したい」という思いから、江戸川区環境財団が2005年（平成17年）に「竹と親しむプロジェクトチーム」を発足。10名で始まった活動は、2009年（平成21年）に「竹と親しむ会」と名称を定めた。念入りな手入れを重ね、発足から21年を経た現在、竹と親しむ広場は見事な竹林へと生まれ変わっている。

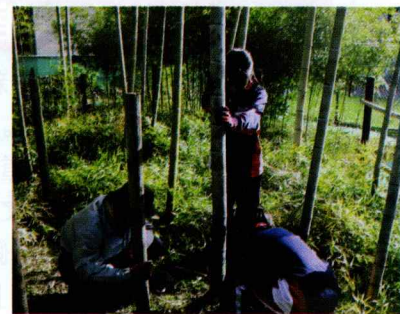
更地から育てた23種類の竹林

活動拠点の「竹と親しむ広場」は、当初は何もない更地だった。会のメンバーは限られた予算の中で毎年少しずつ竹を植え、間伐や雑草取りを続けながら地道に竹林を整備してきた。現在では孟宗竹、黒竹、ホテイチクなど23種類が育ち、豊かな竹林が広がっている。この取り組みは高く評価され、第26回「国土交通大臣賞」を受賞し、「えどがわ100景」にも選ばれている。

活動は大人だけで始まったが、広場を訪れた小学生らが関心を寄せ、現在は小・中学生もメンバーとして参加している。竹林の維持管理を中心に、竹とんぼや竹笛などの竹細工にも取り組む。代表の羽田勝彦さんは「子どもたちの声をできるだけ取り入れています」と話す。中学生の発案による水鉄砲づくりが実施された一方、小・中学生が造った坪庭は広場の象徴的な存在となっている。

学校とつながり、親子で学ぶ文化

会は、近隣の小学校(南篠崎小学校、篠崎小学校、第二篠崎小学校等)を訪れ、竹に親しむ活動を行っている。今年1月には南篠崎小学校の体育館で授業の一環として実施し、集まった保護者と子どもたちに竹の特徴や歴史が紹介された。竹とんぼを飛ばす体験では、最初はうまく飛ばせなかった子どもたちもコツをつかむと高く舞い上がるようになり、歓声が上がった。竹笛や竹馬にも触れ、夢中で楽しむ姿が印象的だった。こうした体験は自然と向き合う貴重な時間となり、学校と地域をつなぐ交流の場として定着しつつある。羽田会長は「竹の文化を継承するという目的は、地域の協力のおかげで順調に進んでいます」と語る。竹林を守り育てる活動は、地域の歴史を次世代へつなぐ確かな取り組みとなっている。



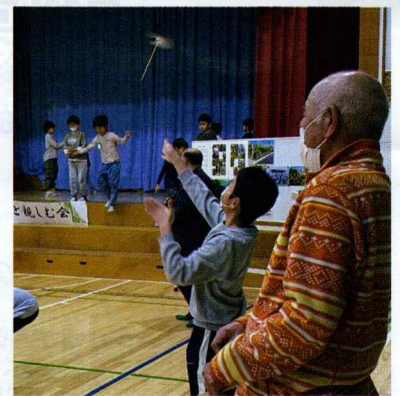
21年かけて整備された竹林。現在は23種類の竹が美しく育ち、理想の姿になったのはここ2~3年前だという。



道路際にごみが捨てられることが多かったが、坪庭ができてからはごみがまったく無くなった。



授業で竹の歴史を紹介する「竹と親しむ会」会長の羽田勝彦さん。



竹とんぼの飛ばし方を教わり、子どもたちは次々と高く飛ばせるようになった。



竹笛の扱い方や吹き方を教えてもらう子どもたち。



竹馬の乗り方を教わり、真剣な表情で挑戦する子どもたち。



竹と親しむ会

竹と親しむ広場で、広場の維持管理、竹の文化を伝える活動を行っている。

活動日：毎月第一・第三日曜日
午前9時30分～午後12時30分
1月第一日曜日、8月第三日曜日は休会
電話番号：090-1990-3611（羽田）

新築・リフォーム・建物に関するお悩み
お気軽にご相談ください!

新築工事 リフォーム工事 耐震工事 公共工事

株式会社 スイコウ

0120-66-0064

プランニング・お見積 無料!

東京都知事 特定建設業許可(特-3) 第86859号
〒132-0024 東京都江戸川区一之江 7-65-28

お葬式事前相談 受付中

@tokyo-sousai ビックメモリー会員 募集中!

LINE

入金登録 無料 + 月々掛け金 不要 = 葬儀基本セット 30% OFF

友だち登録で基本費用から
さらに **1万円引き**

葬儀専門 46年・年間 3,000 件の実績、
首都圏の葬儀・お葬式・家族葬ならお任せください

東京葬祭

24時間 365日 受付窓口 0120-88-6111
〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 5-4-16

地域と共に、次の未来へ

小松川信用金庫

おかげさまで 107 年

こましんアプリから
口座開設いただけます!

Android iOS

公式キャラクター
こまちゃん

共にチャレンジする
仲間を募集しています

HP

私たちと一緒に
働きませんか?

https://www.shinkin.co.jp/komashin/

江戸川区・新川 歴史がつなぐ水辺の散歩道

～新川さくら館とともに～

江戸川区を東西に流れる新川は、かつて「船堀川」と呼ばれ、江戸の暮らしを支えた重要な水路だった。江戸初期、徳川家康の入府後には、行徳でつくられた塩を江戸へ運ぶ“塩の道”として利用され、物流の要として発展した。

当時の川は曲がりくねっており舟の運航が難しかったため、「三角」を起点に西側は川幅が広げられ、東側には江戸川へ一直線につながる新たな川が開削された。これが現在の「新川」で、旧河道は「古川」と呼ばれるようになった。その後は北関東や東北ともつながり、塩のほか年貢米、みそ、醤油など多様な物資を運ぶ舟運の川としてにぎわった。

陸上交通の発達により、昭和初期には水運としての役割を終える。現在の新川は平均幅約30m、全長3km。川沿いには遊歩道が整備され、約20種類・700本の桜が植えられている。春には一帯が桜色に染まり、穏やかな水辺の景観が訪れる人を楽しませる。

その川辺に建つ「新川さくら館」は、和風建築の落ち着いた外観が特徴で、地域文化の拠点として親しまれている。江戸川区や友好交流都市の特産品、飲み物、アイスなどを扱う売店もあり、散策の途中に立ち寄り人の姿も多い。

また、イベント時等に運航される「和船」では、川面の景色をゆったりと楽しみ、かつての舟運文化の面影を感じられる。江戸情緒あふれる新川の水辺を、次の散歩道に選んでみてはいかがだろうか。



郷土資料室提供
エンジンの音から「ボンボン蒸気」と呼ばれた小型船。新川を運航（大正8年～昭和19年）。



和船乗船体験の様子。

「新川さくら館」は沿川散策の休憩はもちろん、家族連れで楽しめる様々なイベントを年間を通して開催しています。新川は水面と歩道が近く川縁の草、水鳥などを身近に楽しめます。春と冬の「さくら館 ライトアップ」では、ぜひ、対岸から川面に映る「イルミネーションとさくら館」をお楽しみください。



イベント開催時は特に多くの人で賑わう。



江戸川区新川さくら館 元館長・瀧野瀬由美さん(写真左)
館長・中野 直美さん(写真右)

江戸川区新川さくら館



東京都江戸川区船堀7丁目15番12号
電話番号: 03-3804-0314
開館時間: 9:00 ~ 21:30
休館日: 年末年始(12/28～翌年1/4)
臨時休館日有
※和船乗船体験(身長110cm以上、600円)
貸し切りも受付中。
お申込み・お問合せについては、新川さくら館まで。



地元の特産品が並ぶ売店。



夜桜のライトアップの様子。

みなてらす の読者のみなさまへ

「みなてらす」は、皆を照らす、皆が照らす、ともに活かし合う、共生社会活動をイメージした言葉です。今回も、人や地域のために尽くす方々や、輝く取り組みを紹介させていただきました。一般社団法人地域コミュニティ振興協会が発行する「みなてらす PRESS 江戸川区版」による発信が、皆様の気づきと地域の「いいね！」が広がるきっかけになればとても嬉しいことです。自薦、他薦問いませんので、「こんな活動しています！」という情報をお寄せください。発行は、春と秋の年2回です。

みなてらす PRESS 編集部

一般社団法人地域コミュニティ振興協会とは

地域のコミュニティを拡充し、住みやすく居心地のいいまちを目指して地域の「いいね！」と思えるような情報を収集し、新聞・WEBなど独自媒体（えがお新聞等）で発信しています。「高齢世代」、「シニア世代」、「子育て世代」のための様々な取り組みと地域課題に取り組んでいるNPOや社会活動団体、町内会、自治会の支援をしています。
<http://www.minaterasu.net>



MA partners | 「見える保険」で信頼される代理店

Facilitator

豊かな地域経済を導くファシリテーター

株式会社 MA パートナーズ 〒130-0012 東京都墨田区太平 3-11-10NTK オオノビル7階
TEL : 03-6240-4898 / FAX : 03-6240-4899 / WEB : <https://ma-partners.com/>

\\ジギョケイ\\

事業継続力強化計画 認定制度

ご存じですか？

お問い合わせはこちら

株式会社 MA パートナーズ
〒130-0013 東京都墨田区太平3丁目11-10NTK オオノビル7階
TEL 03-6240-4898
担当 野村



みなてらすPRESS 江戸川区版
メールアドレス edogawa@minaterasu.net

- 発行者:一般社団法人地域コミュニティ振興協会 城東支部 江刺憲司 (株)MAパートナーズ 東京都墨田区太平3-11-10 NTKオオノビル7階 TEL 03-6240-4898 FAX 03-6240-4899
- みなてらす統括本部:一般社団法人地域コミュニティ振興協会 東京都江東区清澄2-8-5 TEL 03-3643-1526 FAX 03-3643-0133
- 本冊子に掲載されている情報は2026年発行当時のものとなります。